



## 神吉小学校4・5年生 “九条ねぎ”のハウス栽培に チャレンジ!



地域農業を支える……………	2~3
農業者年金……………	3
食と農業 その9 ……………	4~5
農業委員会のうごき……………	6~7
なんたんあっちこっち……………	8
委員ぶらり旅……………	8
編集後記……………	8



慣れた手つきでほだ木を切り出すメンバー

# 地域農業を 支える。

## あの人この団体!

地域農業の再生を目指して、人と農地をテーマに、個人やグループで力強く農業を営む 農業者シリーズを掲載します。今回は、園部町内で地域や家族で精力的に生産活動されている方々を紹介します。

(取材：澤田 肇委員、藤田 瑞穂委員)

### 里山整備とほだ木生産

園部町船岡

シイタケほだ木生産グループ

内藤 政男さん

秋の採り入れも終わった11月から、鳥獣被害防止と森林育成を兼ねて里山整備を行っています。緩衝地帯をつくる事により、少しでも被害を食い止め、大切な農地を守り、森林を育てることが出来ればと思ひ、雑木を伐採して有効利用を図っています。

切り出した「クヌギ」や「桜」を「しいたけ」や「なめこ」の栽培用として約10年ほど前から「シイタケほだ木生産グループ」として第一線



整然と積まれたほだ木

を退いた仲間6名で活動しています。

府道園部平屋線沿いの園部町船岡に集積しており、車で通行される方々にも多く買い求めていると思います。平成24年も3千本ほど生産しました。

自分で栽培し、収穫の喜びを味わっていた人が少しでも増えればと思つてこの仕事を続けています。

メンバーのほとんどが高齢化してきたのがちょっと心配ですが、元気で一年でも長く続けたいと思っています。

### 大かぶ 出荷たけなわ

南大谷生産組合

組合長 橋本 博さん



冷水で洗われる“大かぶ”

南大谷地区は、府立農芸高等学校の所在地でもある、海拔774メートルの半国山のふもとの集落です。農家19戸、非農家13戸で19ヘクタールの耕地面積を有しています。平成13年に中山間地支援事業を受け入れ、従来の共同組合を改組し、現在の生産組合を設立しました。小



きれいになった“大かぶ”

取材に訪れた12月中旬は、大かぶの出荷の真最中でした。谷水で大かぶが綺麗に洗われて次々と箱詰めされていました。南大谷の大かぶは、12月中旬から2月にかけて約1万個出荷され、有名漬物店の店頭に、風味豊かな千枚漬けとして並ぶそうです。

麦4ヘクタール、その後作として夏場に小豆2ヘクタール、大かぶ0.7ヘクタールを栽培しています。いづこも同じですが、高齢化が進み、小豆の乾さや取りの作業労力が不足し、組合員以外にも応援を頼んでいます。

ハウス栽培15年

園部町曾我谷 高屋 昭平さん

久枝さん

平成10年、それまで京都への会社勤めで平凡なサラリーマン生活を送っていましたが、定年後の生活に不安を抱き、一念発起、早期退職し、きゅうりと春菊栽培を生業にと考え、当時、農業改良普及所が行う就農講座に参加して知識を習得しました。妻の少しの不安と反対を説得し、二人で50メートルのハウス4棟を設置してスタートしました。約90アールの稲作との両立で苦労も多いですが、その合間をうまく利用して頑張っています。3月下旬からきゅうりの栽培にとりかかり、7月中旬ごろまで収穫、出荷し、その後、春菊の種まきをしています。夫婦とも元気で今日までやってきました。まだまだ頑張れると思います。健康に留意し、妻と



高屋さん夫妻と自慢の春菊

取材メモ  
お伺いしたのが12月としては珍しく好天で、ハウスの中は汗ばむくらいでした。出荷の最盛期を迎え、奥さんと二人、忙しく収穫作業を行っておられました。

二人仲良く、長く続けたいと思っています。



★農業者年金に加入しましょう★



農業者年金は、国民年金の第1号被保険者である農業者が、より豊かな老後生活を過ごすことができるよう国民年金（基礎年金）に上乗せた公的な年金制度です。

- ◎農業に従事されている方は誰でも加入できます。（60歳未満の国民年金第1号被保険者で年間60日以上農業に従事している方。）
- ◎保険料は自分で選べ、いつでも見直せます。（月額2万円から6万7千円の間でご自身のライフプランに合わせて自由に選択できます。）
- ◎税制面で大きな優遇措置があります。（支払った保険料は最大80万4千円の社会保険料控除の対象となり、将来受け取る年金にも公的年金等控除が適用されます。）
- ◎終身年金で80歳までの保証付きです。（80歳になる前に亡くなられた場合は、80歳までに受け取れるはずであった金額を死亡一時金として遺族が受け取れます。）

まずは農業委員会にご相談ください TEL0771-68-0067



地域のシンボリック存在の水車



## 食を支える あの人この団体!

南丹市農業委員会は、農業の果たす役割と、食の大切さを多くの市民の方に知っていただくために、食と農業に係わる人や団体のシリーズを掲載しています。

(取材:吉田陽子委員・下間久子委員)

始めは、自家用のためにスタートしたのですが、今では注文があれば知り合いの方の加工も手掛けています。

水車のほかに、ピザ用の釜も自分たちで造り、月に1回程度は12〜13名の仲間と一緒に、生地作りは女性、焼くのは男性がと、作業を分

近いうちにやってくる。私たちの集落が限界集落となるのは、現時点では避けては通れないのが現実です。

「今のうちに何かをやっておかないと」の思いから、水車を造り、精米・米粉を加工する事にしました。

夢に向かって!

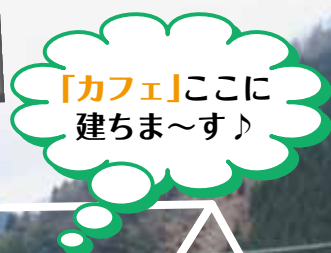
美山町鶴ヶ岡

上田 純二さん

担しながらピザ作りを楽しんでいます。

水車、ピザ釜、次はカフェを！と、それも3月までには実現したいと、今、大きな夢に向かってみんなで頑張っています。

水車を使って加工した材料で、こけら寿司、ピザ、パンなど、特産品作りに試行錯誤の毎日です。



水車小屋



ピザ用釜とおくださん



煮大豆を専用機械でつぶします



大きな釜で大豆を煮ます



糍作り

### ★材 料

煮大豆	3kg (大豆 1 升分 1.4kg)
糍	1k650g
塩	600g
アメ (煮汁)	3.5 カップ

### ★作り方

1. 最初に塩と糍を混ぜる
2. 煮大豆と上記1とを攪拌機に入れ、少し混ぜ合わせ、アメを入れてよく攪拌する。
3. 耳たぶの硬さくらいを目安に仕上げる。
4. 仕上げた味噌を容器に入れ、空気が入らないように（焼酎一ホワイトリカを含ませたフキンを上を敷く）して、軽い重しをのせて熟成させる。（7ヵ月以上）

### 赤みそ寒仕込み体験

かりんグループ

代表 松本 政代さん

毎年恒例の八木町農村環境公園水室の郷で行われた、赤みそ仕込み体験を取材してきました。  
今回は、小さな子どもさんから、ご夫婦や男性のみでの参加など18名の参加者がありました。  
地元産の白大豆を使い、地元産の米で糍を作るなど、安心して口に出

来る、地元産にこだわっておられます。

仕込みまでは4日間かかり、出来上がりまでは7ヶ月と、口に入るのは夏真っ盛りの時期になりますが、今から夏が待ち遠しい皆さんです。

「ここで習うみそはおいしくて、安全で、安心して食べられることが出来るのでうれしい」と毎年参加の人もありました。

代表の松本さんも「年々若い人の体験希望が多く、たのしく、うれしい」とおっしゃっていました。



容器に入れて出来上がり



耳たぶの硬さくらいに仕上げます

# 農業委員会のうごき

## 管外視察研修を実施



11月29日に兵庫県加西市役所で「人・農地プラン」について、岡山県倉敷市の浄水場での「太陽光発電設備」について、翌30日に岡山県久米郡美咲町境地区農業生産者組合の「耕作放棄地の解消と加工販売」の取り組みについて研修しました。

加西市役所では、県を上げての取り組みで、近畿で最初にプラン作りに取り組んだ経緯や中心となる経営体の実態について説明を受け、意見交換を行いました。

太陽光発電設備については、環境対策だけの側面ではなく、浄水場の上に設置することにより、藻の発生抑制にもつながっているなどの説明を受けました。

境地区農業生産者組合では、人口114人、戸数50戸の高齢化率 50%の地域で、棚田と赤そばで、「今住んでいる人が楽しむこと」を主眼に里の活性化に取り組んでおられました。

42.2ヘクタール、850枚の棚田を中山間地交付金や農地・水対策の制度を活用して管理し、平成14年にたまたま役場にあった赤そばの種を植え付けてから年間1万人の観光客がこの景観作物の赤そばを見学に来るようになり、翌15年に地域住民全員で「そば屋」を開設され、そばの生産から加工、販売までを運営されています。

現在、そばの作付面積は11ヘクタールですが、5年後には16～17ヘクタールにして、そばにこだわって取り組みを強化していきたいと組合長さんが夢を持って語っていました。

ちなみに公民館で十割そば、境そば、野菜の天ぷら、赤米おむすび等のおもてなしを受けました。その他にも特産品の数々を販売されていますが、「そばアイス」は人気商品だそうです。



## 農地パトロール、耕作放棄地全体調査を実施



11月12日から16日の5日間、集落ごとに17班体制で農地パトロールと耕作放棄地全体調査を実施しました。

主に平成23年度に農業委員会で許可された農地及び農用地区域内農地や周辺優良農地の実態調査を行い、無断転用や遊休荒廃農地の早期発見等、農地をめぐる現状把握を行い、早期改善に向けて農家の理解と協力を求めることとしています。

# 農業施策に関する建議書提出!!



佐々木南丹市長に建議書を手渡す野中会長と大沢職務代理と上田農政部長

平成24年12月10日(月)に南丹市長に対して建議書の提出を行いました。内容は農政部会で審議を重ね、四つの項目に絞った内容となっています。

以下にその要約を掲載します。

## 1. 食育・地産地消の推進について

次代を担う子どもたちには、「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得させるためにも、学校等が行う農業体験活動の取り組みに対する支援など、生産者と触れ合うことによる、子どもたちの「食」への関心と、「食」を作り出す「農業」への興味を抱く施策の推進についての財政措置を講じられたい。

また、地産地消の観点から、保育所、学校給食の食材について、安心安全な地場農産物の安定した供給の確立を図るべく、可能な限り需要量の把握に努め、生産者の意欲向上につながる供給体制の一層の確立を図られるとともに、使用量及び使用品目の拡大に努められたい。

あわせて、安全な給食を提供するため老朽化が進んでいる美山学校給食共同調理場等については計画的に改築等を進められたい。

## 2. 有害鳥獣対策について

農作物への鳥獣被害は、農家の生産意欲を減退させ、農地の耕作放棄に直結しかねないことから、鳥獣被害対策事業を重点施策としてさらに強化されたい。

具体的な施策として、若手狩猟者の育成・捕獲檻の設置助成・狩猟期間制限の緩和及び捕獲・処理費に係る支援の強化による捕獲体制の充実を図られたい。又、畑作物への被害が深刻なサルの駆除体制の強化及びクマの捕獲頭数制限の緩和による個体数の削減等について、京都府へ要望されるとともに、京都府との連携により駆除体制の強化を図られたい。あわせて、里山整備による緩衝地帯の設置についての支援強化と、長期的視点から奥山に野生動物のえさとなる広葉樹の植樹などについても支援策を検討されたい。

## 3. 「人・農地プラン（京力農場プラン）」づくりの推進について

農業生産基盤を維持していく上で、地域に見合った農地利用集積を推進する「人・農地プラン（京力農場プラン）」の策定が求められている。

集落（地域）が抱える「人と農地の問題」について、5年後あるいは10年後を見据えた話し合いの機会創出の推進を図られ、「人・農地プラン」の策定についての支援と指導を行い、集落（地域）での中心的な担い手への農地集積を推進されたい。

また、本事業において、地域の中心となる担い手が農地を集積し、経営規模を拡大するために集落単位で計画する必要な農機具等の購入についても、補助対象経費となるよう要件の緩和を国・府へ要望されたい。

## 4. TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）への対応について

TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）が実行されると、協定締結の前提条件に基づき関税の全面撤廃が行われ、その結果、輸入農産物が極めて低価格で販売されることから、国内の農家が壊滅的な打撃を受けることは避けられず、農地の荒廃が一気に進むことが危惧されるため南丹市農業委員会としてTPP交渉参加に反対する。市においても国・府に対し交渉への参加反対の旨要望されたい。

なんたん

# あっちこっち

とにかく広い南丹市。

南丹市のあちらこちらでは、その地域ならではの面白く、楽しい、また興味深い取り組みがされています。

そんな南丹市の、あっちこっちのできごとを紹介します。



日吉町中世木の集落は、小中学生が2名ずつと少子化地域であり、3年以内に限界集落になると予測されています。子ども達を大切に、人を増やさなあかん、愛郷精神が大切と考えられ、「ひなまつり」と「婚活」という2つの交流イベントを実施されました。婚活では、田舎好き、森林大好きな女性5名を迎え、1組のカップルが誕生しました。地名のとおり「仲良き(中世木)地」の更なる創造に向け、ますますの発展を期待します。  
(取材 吉田 陽子委員 下間 久子委員)

## 棚田のひなまつり

当時300人以上いた大野小学校の児童も今は30人弱ですが、美しく色づいた紅葉が歴史を未来に向かって伝えてくれます。国指定の「美山かやぶき由良里街道」の始発駅であり終着駅で、昨年6月には府の景観資産に登録されました。春には桜が皆様のお越しを待っています。  
(取材 梅津 義明委員)



交流を図り、地域の活性化に頑張っておられる姿を、半世紀も前にダム建設という国の一大事業にゆれた山里の人たちの目にとどように映っているでしょうか。  
毎年、「手作りのおもてなし」をテーマに地域の人が特産品の販売や音楽ライブで都市住民との

## 大野ダム完成から半世紀



八木小学校では、毎年、地域と共に歩む、活動に取り組みられています。今回は、2年生の「しめ縄作り」の挑戦を取材してきました。児童は、指導者のアドバイスを受けながら、一生懸命しめ縄作りに励み、誇らしげに互いの出来栄を見せ合いながら、2時間あまりの学習体験の時間を楽しんでいました。  
(取材 小川 幸雄委員)

## うまくてきたよ! しめ縄作り

## 委員ぶらり旅



皆さんもぜひ一度足を運んでみてください。

同所には民芸博物館が併設されており、昔の農機具や国内外のクラシックカー、カメラ、世界各地で生息している蝶の標本など、昔に思いを馳せ、楽しい一時を過ごしてきました。

余暇を利用して、近くの「かさがた温泉」へ行ってきました。自宅から西へ約80キロメートルの兵庫県神崎郡市川町にあり、静かな山景を眺める純和風の露天風呂で、しばし時の経つのを忘れました。



澤田 肇 編  
委員

## 編集後記

神吉小学校では、九条ねぎの栽培体験で、種まきから収穫・選別までの野菜栽培に取り組んでいます。収穫したねぎを活用し、「ねぎピザ」作りにも挑戦していました。  
(小川幸雄委員)